

本時のねらい

広告を比較することを通して、教科書の本文から筆者の主張を捉えることにより、情報の発信側と受信側の意識や意図について考え、情報との付き合い方における考えを深める。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

資料となる異なる二つの広告をロイノートで配付し、購買意欲をかきたてられた広告を選びアンケート集計を行った。その場で集計結果を可視化して共有した上で、そう考えた理由を交流する。それにより情報がもたらす効果について実感をともなって考え、筆者の主張を捉えることにつなげた。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ iPad
- ・ ロイノート

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ○二つの広告を比較し、買いたくなった方を選ぶ。 ○選んだ理由を提出し、交流する。 ○本時のめあてと単元のゴールを確認し、学習の見通しを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書にも載っている資料ではあるが、ロイノートで配付することですぐ近くで拡大することなどができ、直感的な選択ができる。 ・ロイノートのアンケート機能を活用し、その場で集計結果を共有する。 ・ロイノート上に記入した内容をもとに交流させ、直接交流できなかった生徒の分は、提出BOX上で共有する。 ・単元の流れをロイノートで配付することで、学習の見通しを常に確認することができる。
展開 (25分)	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書を読み、筆者の主張を捉える。 ○文脈から意味を捉える必要のある言葉について、適切な意味を、小テスト形式で確認する。 ○筆者の主張には、「情報の発信側には意図があること」「情報を受信する側にはメディアリテラシーが必要なこと」の両方の視点があることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査などで出題される形式と同じように、文脈から意味を捉えるべき言葉の確認を、ロイノートを活用して行う。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○情報との付き合い方を振り返り、振り返り用紙に記入する。 	

1人1台端末を活用した活動の様子



広告を見比べ、買いたくなった方をアンケートで答えて共有。



言葉の適切な意味を小テストで確認。



本文を読んで、課題に取り組む。

児童生徒の反応や変容

- ・アンケート結果をリアルタイムで見ることができ、友だちがなぜそう考えたのかがすぐにわかることで、興味をもって取り組む姿が見られた。
- ・テスト機能を使うことで、自分の言葉の使い方の誤りをすぐに確認することができ、正答率も共有することで、意欲的に取り組んでいた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・自分の意見の表明が苦手な生徒も、アンケート形式にすると自然と取り組み、全員が意見交流できるため、導入としては活用しやすいと思います。
- ・テスト機能は全員で同時に行うことができ、自動採点機能もあるので、小テストなどに活用してカードを送ってあげれば復習にも役立つ。